

ニガウリ雨よけ栽培における垂直面横誘引方法と栽培技術

○神崎悠梨・手嶋康人・佐藤正幸<sup>1)</sup>・山下大輔<sup>2)</sup>(大分農林水産研野茶<sup>1)</sup>・農業大学校)

On a plane surface horizontal training method and cultivation technique in balsam pear under plastic canopy

Kanzaki, Y., Y. Teshima, M. Sato and D. Yamashita

【目的】

ニガウリの雨よけ栽培では5～6月が高単価のため、初期収量向上技術が求められている。そこで、初期収量向上のため垂直面横誘引法の開発、子蔓本数、栽植本数および栽植密度の検討を行った。

【材料および方法】

試験1 垂直面横誘引法（親づるの摘心後に伸びてきた子蔓を各段の誘引線に分けて横方向に誘引していく誘引法、子蔓5本/株、栽植密度は初期500株/10aで7月23日以降250株/10a 第1図）と通常の棚誘引（子蔓4本/株が棚に到達後放任、栽植密度は初期500株/10aで7月23日以降250株/10a）を比較した。品種は‘えらぶ’（八江農芸）用い、2007年3月22日に定植した。

試験2 垂直面横誘引法で子蔓600本/10a（子蔓3本/株、栽植密度200株/10a）、子蔓1,000本/10a（子蔓5本/株、栽植密度200株/10a）、子蔓1,250本/10a（子蔓5本/株、栽植密度250株/10a）の3処理区を設けて検討した。品種は‘えらぶ’を用い、2005年4月11日に定植した。

試験3 垂直面横誘引法で子蔓1,250本/10a（子蔓5本/株、栽植密度250株/10a）と初期2,500本/10a（子蔓5本/株、栽植密度は初期500株/10aで7月11日以降250株/10a）の2処理区を設けて、初期の栽植本数を比較した。品種は‘えらぶ’を用い、2006年3月17日に定植した。

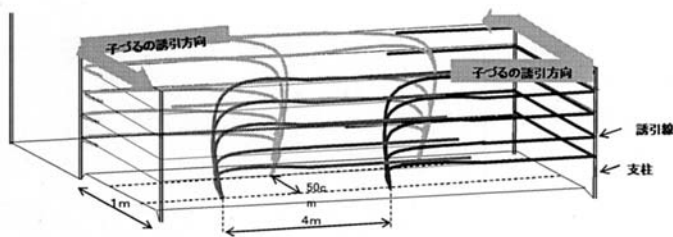
【結果および考察】

試験1 垂直面横誘引法で子蔓の仕立て本数を5本/株、初期の栽植密度を500株/10aとすると、棚誘引法に比べて商品果収量が6月末までで47%多く、収穫期間を通しての商品果収量に差がなかった。さらに子蔓1本あたりの商品果収量も高かった（第2図）。

試験2 収穫期間を通しての商品果収量は子蔓本数1,000本/10aと1,250本/10aとも約6t/10aと同程度であったが、6月の商品果収量は1,250本/10aのほうが24%高かった（第3図）。

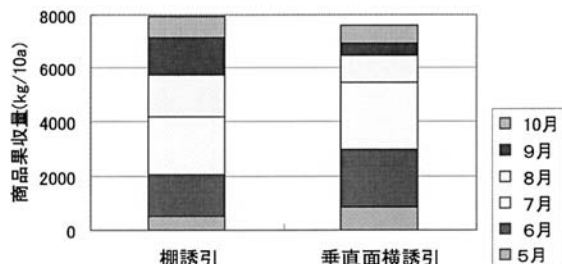
試験3 初期の栽植本数を2,500本/10aにすると1,250本/10aに比べ5～6月の商品果収量が47%増加し、収穫期間を通した商品収量も優った（第4図）。

以上の結果から、垂直面横誘引法は棚誘引法に比べ栽植本数が多くとることができ、初期収量の向上が可能であった。また立ったまま横向きで作業でき姿勢が楽であることから、高齢者・女性向けの方法と思われる。

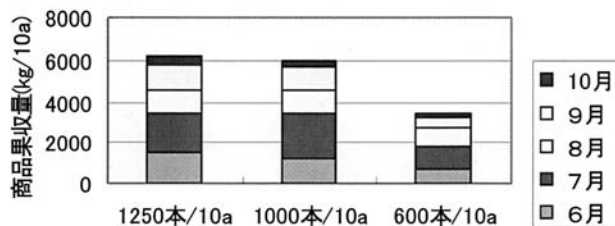


第1図 垂直面横誘引の図

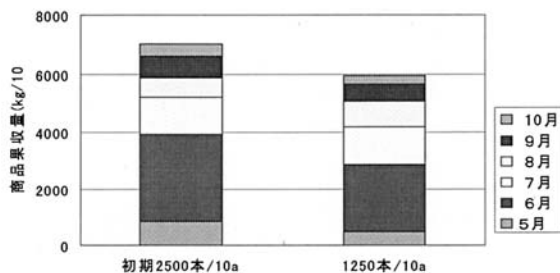
注1) 子づる5本/株、栽植密度250株/10aの場合  
(畝間2m、株間4m、条間50cm、2条干鳥補え)  
注2) 伸びた子づるは隣の株の上に重ねていく  
注3) 支柱の位置はうねの外側でも内側でもよい



第2図 棚誘引と垂直面横誘引  
注) 収穫期間: 2007.5.21～2007.10.31



第3図 栽植本数の比較  
注) 収穫期間: 2005.6.6～2005.10.25



第4図 初期の栽植本数  
注) 収穫期間: 2006.5.16～2006.10.30